

# 伝統を受け継ぎ、残し伝える柱松

【串間市立市木小学校】 (上園昭智校長 児童数20人)

300年の伝統を誇る串間市市木の火祭り「市木柱松」が9月11日(日)に岩折神社前の多目的広場で行われました。高度成長期に若者の流出で一時途絶えましたが、無病息災や五穀豊稔を願い、地域の方々が18年前に復活させました。平成20年度より、市木小学校の児童も「子ども柱松」として参加しています。



各自が思い思いに手作りした手松

まず、10m近くの柱松を強風の中で立てる作業です。児童は3班に分かれ、長さの違う組んだ竹ざおと四方から張ったロープを使って、「エイトナ〜ツ」の掛け声に合わせて少しずつ柱松を立てていきます。先人から学んだ知恵と技術を使っ

盛り上げました。

て、心をひとつに見事なチームワークで柱松を立ち上げていく姿に、歓声と大きな拍手が起りました。そして松明(たいまつ)の代わりに、紙コップやゴムボールを使い自分たちで作った手松(てまつ)を紐の先に取り付け、柱の先端の籠に向かって、ぐるぐる回して遠心力を使って投げこんでいきます。最初の1個が入るまで何度も挑戦します。15分近く投げ続けるのを少し下げてようやく成功しました。

大人の柱松が始まると、子どもたちは、炎に包まれた手松を振り上げるスピードと高さの勇壮さに見入っていました。体力の限りを尽くし何度もチャレンジする姿に未来の自分を重ね合わせたのではないのでしょうか。そこに集った人が満足感と充実感いっぱいになる祭りを、しっかりと残し伝えていきたいですね。

校長先生はじめ教職員も、地鶏や焼きそばを焼いたり、チケットの受付を担当したり、保護者と一緒になって祭りを



「エイトナ〜ツ」掛け声と同時に立ち上がっていく柱松